

---

# 祝福の詩

桂樹 槐

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

祝福の詩

### 【Nコード】

N2887D

### 【作者名】

桂樹 槐

### 【あらすじ】

卒業生に捧ぐ、そんな感じの小説です。最後だと思つと、それまで嫌だった教室も、離れがたくなったりしませんか？

最後に立ち寄った教室は、やけに静かで、ひんやりとしていた。  
教室の真ん中あたりにある自分の席に座って、ぐるりと教室を見回した。

今日でこの席ともお別れか、そう思うとなんだかくすぐったくて、すこしだけ寂しくなった。

高校最後の文化祭。

クラスのみんなで一丸になって盛り上がって楽しかったよな、とか。  
高校最後の運動会。

フォークダンスはちょっと恥ずかしかったけど、でも楽しかったな、とか。

受験が間近に迫ってきたときは、友達が大事だなんて実感したり。

会おうと思えば会うことが出来るだろう人たちと、もうこれっきりになってしま

うかもしれない人たち。

出来ることならばもうちょっと一緒にいたかったかな、なんて我が儘かもしれないな  
いけれど。

そう、やっぱり、くすぐったい

最初は一番下で、先輩と呼ぶ人しかいなかったのに、

中学生はいたけれど

いつの間にか後輩が出来て、いつの間にか後輩しかいなくなった。時間は確実に流れていたことを、そういった変化が物語っている。

また、いつか会えたらいい

そうしたら今までみたいにバカ騒ぎしたい  
でも時の流れは無情だから

次会うときはどうなってるのかわからない

卒業式の影響か、考え方が少しだけ暗く……悲しい方向へ向いてしまった。

大丈夫、みんなすぐに人が変わったたりしない、多分。

「…帰るぞー！」

ふいに降ってきたその声に後ろを振り向くと、いつもと同じ仲間たち。

「今、行く」

そう、自分に言い聞かせるようにして呟いた。

名残惜しいように机に手を沿わせながら、扉へ向かう。

さようなら

またいつか会いましょう

そんな声がどこからか聞こえてきたような気がする。

下駄箱の周りでわいわいと別れを惜しんでいる人たちのにぎやかで、

どこか悲し

い、でもうれしそうな声。

わけのわからない苦笑が滲む。

祝福の鐘をあなたへ

祝福の詩をあなたへ

どうかどうか

あなたの心に届きますように

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2887d/>

---

祝福の詩

2010年12月10日20時49分発行